



いまこそ教養！

# 「名作文庫」通信



新刊案内	.....P1
特集展示【美醜】	.....P2
名作文庫いざない回書	.....P3-P4
作家紹介【マアリー・シェリー】	P5-P6



## 平成30年 夏号





## 特集「美 醜」

対極にありながら、互いを際立たせ合う「美」と「醜」。  
名作に描かれる美と醜は、時に残酷で時に哀切。  
人間の心に鋭く切り込み、その本質を問いかけてくる。



### 【美女と野獣】

ポーモン夫人／著 村松潔／訳 新潮文庫／刊

父の身代わりとして野獣の下に赴くことになった美女・ベル。彼女のやさしい心は、野獣の心に変化をもたらす。容姿は対極にある二人の愛情に満ちた名作ロマンス。



### 【ドリアン・グレイの肖像】

オスカー・ワイルド／著 福田恒存／訳 新潮文庫／刊

美貌を武器に背徳の生活を享樂する青年ドリアン。彼の悪徳を映す鏡のように、醜く変貌していく肖像画を恐れ、ついに肖像を切り裂いた彼の運命とは？



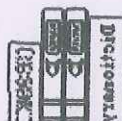
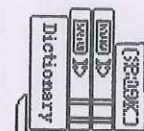
### 【地獄変・偷盗】

芥川龍之介／著 新潮文庫／刊

己の欲する美を表現する為に、人はどのような犠牲を強いられるのだろう。燃え盛る炎の中に見えたのは究極の美か、終わりのない地獄か……。芥川龍之介渾身の傑作短篇。

## 新しく入った本

こちらで紹介しているのは所蔵図書の一部です。



### 【怪盗紳士ルパン】

モーリス・ルブラン／著 平岡敦／訳 ハヤカワ・ミステリ文庫／刊

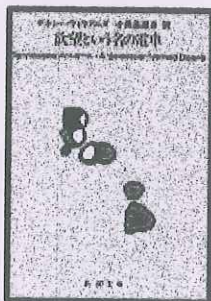
怪盗紳士の代名詞とも言うべき「アルセーヌ・ルパン」。初登場となる「アルセーヌ・ルパンの逮捕」をはじめ、世代を超えて今も愛されるヒーローの活躍譚9篇を収録。謎と冒険に満ちたルパンの華麗なる活躍を描く。



### 【田舎教師】

田山花袋／著 新潮文庫／刊

貧しい家に生まれ、文士に憧れと野心を燃やしつつも寒村の教師となった林清三。ついには失意と諦念の内に短い生涯を終える。田舎の生活や風物を背景として、青年の出世主義とその挫折を描く「自然主義」文学の代表作。



### 【欲望という名の電車】

テネシー・ウィリアムズ／著 小田島雄志／訳 新潮文庫／刊

アメリカ南部の裕福な農園の娘・ブランチ。財産を全て失い妹のアパートに身を寄せ、過去の幸福にすがろうとする彼女に残酷なまでの「新しいアメリカの生」が突き付けられる。近代演劇史に名を残す不朽の名作。



いざない図書の見どころと、いざない図書の中で紹介されている名作文庫

### 朝吹真理子が聴く

#### 【抒情小曲集 愛の詩集】

室生犀星/著 講談社文芸文庫/刊

小説家であり詩人でもあった犀星。その代表的な三詩集の全てを収録。著者による序文の他、北原白秋・萩原朔太郎・佐藤春夫による推薦文なども収める。



### 島田雅彦が聴く

#### 【どくとるマンボウ航海記】 北杜夫/著 新潮文庫/刊

1958年11月から約半年間、水産庁の調査船に船医として乗船した著者の航海記。船上での出来事やアジア・アフリカ・ヨーロッパなど寄港した各地の風物を織り交ぜる、のびやかで奔放な体験記。



### いとうせいこうが聴く

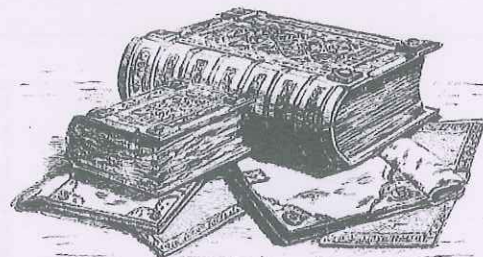
#### 【暗夜行路】 志賀直哉/著 新潮文庫/刊

男女の過ちに翻弄される主人公・謙作。出生時すでにその咎を負い、幼少の頃から漠然と不安を感じつつ生きていく…。過酷な運命にさらされ、時に自暴自棄になりながらも幸福を得ようとする青年を描く。



## 名作文庫いざない現代図書

名作文庫は敷居が高い、難しそう、などなど…今まで名作文庫を読んだことのない方や、もっと名作文庫を楽しみたい方に、名作文庫にいざなう現代本を紹介します。



### 【文豪の朗読】 おすすめいざない図書

朝日新聞社/編 朝日選書/刊



文豪による自著の朗読を聴いた  
現代の作家・文学者が綴る作品・作家論

文豪が自分の作品を音読する…。なんとも魅力的な話だが、朝日新聞社はかつて雑誌の付録として「ソノシート」を制作。その音源が今も残されている。これら所蔵する音源の他、残存する他社所蔵の音源を現代の作家・文学者が聞き、文豪とその作品の魅力を綴る。



人間とは何か？善とは？悪とは…？  
200年前に英国で生まれた 美しくも哀しい永遠不朽の大ロマン！

## 【フランケンシュタイン】



フランケンシュタイン  
シェリー  
光文社古典新訳文庫刊  
小林章夫訳



創元推理文庫刊  
森下弓子訳

冬の夜もわびしいとある夜、消えかけた蠟燭の明かりの下で「それは誕生した。天才科学者がつくりあげたもの、それは見るも恐ろしい怪物だった…」

### ストーリー

若く才能あふれる科学者フランケンシュタインは生命の秘密を探り当て、ついに人造人間を生み出すことに成功する。しかし誕生した生物は醜悪な姿のため、フランケンシュタインに見捨てられる。無垢で子供のような怪物は、やがて知性と感情を獲得し、人間の理解と愛を求めるが…。

呪われし創造主よ！  
お前すらも険悪に目を背けるようなひどい怪物を、なぜつくりあげたのだ？

「フランケンシュタイン」  
光文社古典新訳文庫刊より

### 意外な原作

「フランケンシュタイン」の名前は広く知られているが、この小説を手にとった人は多くないだろう。それゆえ、ほとんどの人が誤った認識をしているが「フランケンシュタイン」とは、怪物を作った科学者の名前であり「怪物」自身に名はない。そして、意外なのは、生まれたばかりの怪物は、言語を学び、本を読んで涙を流す、感性豊かで、知的な存在である事だ。社会から疎外された怪物が叫ぶ、深い孤独と絶望の訴えは、人とのつながりを求める現代人にも共感できるテーマではないだろうか。

## 今号の作家紹介

メアリー・ウルストンクラフト・ゴドウィン・シェリー  
(Mary Wollstonecraft Godwin Shelley)  
1797年8月30日 - 1851年2月1日

イギリスの小説家。ゴシック小説『フランケンシュタイン』で名を残した。この小説は、メアリーが当時十九歳で書いた処女作で、しばしば最初の本格的なSFとして位置づけられている。又、詩人のパーシー・シェリーは夫である。

### なぜこの作家がすごいのか？

メアリーが十代で書いた『フランケンシュタイン』の全体的な完成度は高くはない。しかし、この小説の真価は、古典としての完成度にあるのではなく、同時に様々な読み方を許す、その可能性にあると言えるだろう。科学者によって新しい生物が製造されるといふ発想自体、メアリーが最初に考案したアイデアであった。



イギリスの天才女性作家

メアリー・シェリー



SHIMOIGUSA LIBRARY



下井草図書館には、「名作文庫」の棚があります。  
一度は読んでおきたい、古今東西の名著名作を、  
文庫版、新書版で集めた本棚です。

季刊名作文庫通信 3.6.9.12月発行



MASTERPIECE COLLECTION

